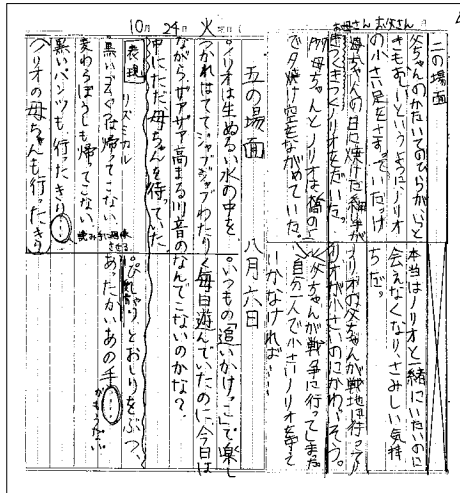


グループでの話し合いにより 「自分の考えを深め、広げる」授業

東京都江戸川区立上一色南小学校

伊井 恵子

児童のノートより



「川とノリオ」は作者いぬいとみこさんが子どもにとっては想像することの難しい戦争の時代を、豊かな表現力で描いた作品である。六年生の児童が、優れた表現を味わいながら読み、登場人物の心情をとらえることのでき

る学習材として、たいへん価値の高い物語文である。

授業の流れ

一人一人の児童が物語である「川とノリオ」に向き合い、自分の中に「川とノリオ」の作品像を作り上げたいと考えた。そこでまず、一人読みの時間を確保した。叙述をもとに、登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、それをグループの友達との話し合いという交流を通して確認し、自分と友達の感じ方とを比べることにした。

話し合いを通して、友達の感じ方のよさや、自分と友達の感じ方のちがいに気づき、一人の読みが深められたり広げられたりすると考えたからである。

グループでの話し合いを充実させるためには、児童一人一人が自分の考えをもって臨むことが前提となる。そのため、ノートにしっかりと書きまとめておくことが必要になる。

ノートへの書きまとめのし方を合わせて指導した。

ノートの書き方

| | |
|-----------|--------|
| 想像できる言葉や文 | 想像したこと |
| | |

学習活動

1. 各場面をまず一人で読み、登場人物の心情や場面の様子が最も想像できる言葉・文を選び、ノート上段に書く。下段には、その言葉・文から自分が想像したことを書く。

2. 三、四人ずつのグループになり、順番に司会を務めながら、自分のノートに書いたことをもとに、その場面での登場人物の心情や場面の様子、表現の工夫について話し合う。

